

もっと知りたい白血病治療 患者・家族・ケアにかかわる人のために 第2版

宮崎 仁(著)

トータス往診クリニック院長/血液在宅ねつと世話人

大橋晃太

患者への説明や初学者の学習に大いに役立つ書

『もっと知りたい白血病治療—患者・家族・ケアにかかわる人のために』の初版が出版された2002年、インターネット時代の到来とともにさまざまな情報に患者がアクセスできるようになったことは好ましいことでしたが、一方で氾濫する情報の中から正しい情報を選択することが患者側に求められるようになり、多くの患者や家族がそれに振り回される結果になりました。かくいう私も当時、白血病患者として同じような境遇に置かれ、情報があるが故の“心細さ”を感じていたのを思い出します。そんな中、初版を書店で偶然目にしたとき、他の書籍との明らかな違いを感じました。それは、1人の医師が、首尾一貫して、自分に対して語りかけるように書かれた本だったからです。医師として血液診療にかかわるようになった後も、患者さんへの説明に際して大いに参考とさせていただいてきましたが、第2版が出版されるとのことで、大変楽しみにしていました。治療薬や移植関連の記載も最新のものにリニューアルされて、より幅広い方々に役立つ内容になっています。

著者の宮崎仁先生は、聖路加国際病院レジデントとして研鑽を積まれた後、藤田保健衛生大血液・化学療法科(現・藤田医大)で長年、血液疾患の治療に当たられてきました。現在はご自身の医院で地域医療に貢献されているのと同時に、プライマリケアの領域でもリーダーの1人として、“街場の血液学”を広めるべく、幅広くご活躍されています。先生が移植を手がけた患者さんが、数十年を経ても遠方から外来に通い続けられているそうです。

多くの白血病患者さんにとって大切な情報である、病態についての説明や治療内容、考えられる合併症、治療に要する期間や予後などはほとんど提供されています。ただ、その中で、どう道を定めていくか、意思決定の部分をどうサポートし

ていくかが近年でも課題となっています。この本の中では、情報提供だけにとどまらず、どうしたらいいかの部分に積極的に触れられているのが印象的です。意思決定のための手がかりが数多く読み取れるのではないのでしょうか。実際、血液学の基本的な説明はもちろんですが、むしろ具体的な治療法についてや、特に移植に関連した説明に多くのページが割かれており、その点も特徴的です。

最後の2章では、再発についてと、治療成績の見方について患者さん向けに書かれていますが、どちらも触れられることの少ない内容であり、成書でしっかり記載されることに大きな意義があると感じます。厳しい内容までしっかり触れているにもかかわらず、わかりやすい図やかわいらしいイラストなど、先生のお人柄のにじみ出ている文章も相まって、堅苦しくならないで読み進められるような工夫が随所にみられます。

また、本書の内容としては、まだ血液学を学び始めたばかりの看護学生・医学生や、リハビリテーションなどコメディカルの方々にもぜひ目を通していただきたい内容です。治療のことばかりではなく、妊孕性や移植後の長期フォローアップの大切さにもしっかり触れられており、また何カ所か挿入された「コラム」も読みものとしてもとても面白くて興味をそそる内容です。この本を通じて、血液領域の診療に興味を持つ若手が増えることにも大いに期待します。



●A5/頁 218/2019 年
定価：本体 2,600 円＋税
[ISBN978-4-260-04073-0]
医学書院 刊